

第39回 オープントーナメントウエイト制 全日本空手道選手権大会

【優勝】

早田信代表
50歳代男子 重量級



大阪府立体育館において
第39回オープントーナメントウエイト制
全日本空手道選手権大会が開催され
この大会から新設された壮年カテゴリーの
50歳代男子重量級で**早田信代表が優勝**しました。
壮年全日本大会無差別級や世界大会で活躍、入賞する
強豪選手が集結するレベルの高いトーナメントでした。

大会リポート

1回戦はシードで、2回戦からの登場となった早田代表。

全日本無差別級で活躍する

東京の選手に、

カウンターの突きと下段を的確に

決め本戦勝利しました。



準決勝は、真正会全日本の

シニア王者との対戦。

お互い正面から打ち合いを

行うも、ジリジリと早田代表が前に出始め

下段と中段の廻し蹴りを的確に当てる

展開となりこの試合も本戦勝利しました。

決勝は、50歳代全日本無差別王者であり
世界大会3位の選手。

最強の相手に一進一退の攻防が展開し、
本戦、延長戦は引き分け、**再延長戦**へ。

お互いにもてる全てのを力を出し切る

激戦に会場が沸きました。

再延長戦を終え、判定は早田代表。

早田代表が優勝の栄冠を手に入れました。



試合を間近で見た道場生からは

極真らしさを感じた。

そして中段回し蹴りがとても

有効だと思いました。

あと顔を叩かれても表情一つ

変えないということが

素晴らしいかったとの声がありました。





試合後、早田代表は、

この度はたくさん

応援ありがとうございました。

皆さまからいただいた

メッセージのひとつひとつが、

チカラになりました。

感謝致します。

これからも

どうぞよろしくお願い致します。

と、早田道場の皆さんへのお礼の

言葉があった後、

重心と体幹を常に意識し

出す一発一発に威力が

あるようにした。

ムダ打ちや、当たっても痛くない

攻撃を無くす事が最終的に

優勢になると改めて実感したと

語っていました。



また、

2027年開催される世界大会で

優勝するため

これからもまだまだ頑張るとの

決意表明もありました。

次は1か月後に

香川県空手道選手権大会 一般部に

出場するそうです。

早田代表の挑戦はまだまだ続きます。



また、この大会と並行し
少年、少女最高峰の空手全国大会
グランドチャンピオン決定戦が
開催され、
早田道場から代表の他3人の選手が
出場しました。

小学2年女子の部
原田幸音さん

1回戦は圧勝と言える内容でした。
突きを効かせて相手が泣いて
しまう場面もありました。

2回戦は出合いがしらに
上段前蹴りを顔に
当てられてしまい
一本をとられてしまいました。

今回、チャンピオンクラスで
優勝、準優勝しか出れない大会で
勝利した事は大変大きいです。

また、ベスト8入賞も果たしました。
最高峰の大会でベスト8入賞は
素晴らしいです。

小学6年男子重力級の部
原田彪光くん

一歩も下がらないしっかりした
体幹で強い突きを打ち込みました。
ヒザ蹴りで相手の攻撃を封じる場面も
たくさんありました。

試合運びという面で相手が
少しだけ上回り、最後の
10秒くらいでまとめ出しをされ
僅差判定で負けましたが
これまでの試合内容から
大きな成長、レベルアップを
感じました。

最高峰の大会で、強い相手に
自分の進化した動きを出せたのも
大変大きな事です。

この経験をキッカケに
さらなるレベルアップが期待出来ます。

高校1年軽量級の部

田口陽煌君

序盤から積極的に攻め、得意な間合いで試合を進めますが、

相手が積極し陽煌君の攻撃を凌ぎ始めます。

その際、バランスを崩して相手に寄りかかって

しまった際に、

掛けの反則を

取られてしまいました。

その後、

優勢に攻めていましたが

上背が低い相手との積極戦の

中での打ち合いの際、

顔面に拳がかすり

顔面殴打の反則を取られ

減点1になりました。



減点があったため

判定負けしましたが

内容は素晴らしく、その階級の

優勝者と変わらない実力でした。

今後の稽古で

反則を取られない事も気をつける

意識を高める事でさらに

高みに到達出来ます。

今後に期待します。

壮年男子50歳代重力級の部

沢田桂聖先生

30年以上ぶりの試合でした。

一歩も下がらないしっかりした組手で稽古した蹴りも良く出ていました。

僅差判定で負けましたが

スタミナ切れもなく最後まで

攻め続ける極真らしい

素晴らしい内容でした。

またぜひ挑戦して

いただきたいと思います。